

たじみん昼話 43

地球の定員はどれぐらい？

日本は少子高齢化と人口減少が進行している。特に地方は過疎化が進み、様々な問題が生じつつある。しかし地球規模で見ると状況は異なる。国際連合の計算(2020年7月)によると世界人口は1年に約8000万人(1日約22万人、1分間に約156人)のペースで増えている。

世界人口が増えているのは、産業革命や農業革命などの「4つの革命」が原因だ。例えば農業革命は農産物の生産量を増加させた。また、産業革命は革新的な機械や輸送機器を次々と発明してその生産量の増加を加速させると共に、輸送機器を発達させて食料品流通網を世界に張り巡らせて食糧不足を解消した。

ここに、医療環境の改善も加わり、1950年ごろに約48歳だった平均寿命は、現在約72歳にまで延びている。2050年に約97億人、2100年には110億人にまで人口は増加すると国連は予測している。ここまで増えるとなると心配になるのが地球の限界人口だ。いくら大量生産が可能になったとは言え、食料は足りるのだろうか。学校に定員があるように、地球に住める定員に限界があるのではないだろうか。

ききょうは心配性なので、現在の農業技術水準での農産物の耕作可能面積や農業及び飲料水に使える水量と食料消費量から、地球上で養える人数をおおざっぱに計算してみた。

答えは、約100億人であった。2050年までは大丈夫そうだ。今後、様々な技術革新が起こるだろうから定員が増える可能性もある。不安は解消できそうだ。

でも、待てよ。地球定員の増加と地球の未来を守る技術革新は誰がするんだ。

見回したところ、君たちしかいないではないか。任せたよ多治見高校のみなさん。